映画のさらば友よ

インディアン サマー

映画が好きで好きで
たまんなかったあいつ
スクリーンの中で死んじまったよ！

川谷拓三

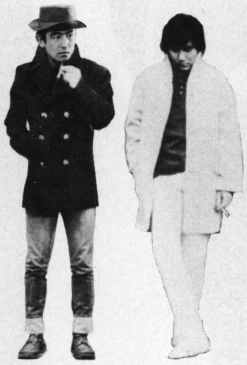
重田尚彦
浅野温子

鈴木ヒロミツ
トビー門口
小杉勇二
山口美也子
石橋蓮司

室田日出男
原田芳雄
〈特別出演〉

監督・脚本■原田真人
プロデューサー■磯田秀人
撮影■長谷川元吉
照明■小熊良洋
音楽■宇崎竜童
美術■丸山裕司
録音■紅谷愃一
編集■鈴木　晄
オリジナル・サントラ盤■キティ・レコード
〈カラー作品〉
製作■キティ・フィルム・コーポレーション
日本ヘラルド映画

Herald



カラー作品
監督・脚本■原田真人
――インディアン サマー――

さらば映画の友よ

映画が好きで好きでたまんなかったあいつ、スクリーンの中で死んじまったよ！

スクリーンと現実を同時に生きているような奇妙なあいつ――ダンさんと呼ばれた映画狂が、冬のある日、ギンギラギンに燃えながらスクリーンの中へ消えちまった。これは映画の魅力にとり憑れ、あっという間に走り過ぎていった、おかしくも哀しい男の物語。

浪人中の青年シューマは、毎日を映画館に通うことと童貞を捨てることに心をくだいている19歳。そんな彼が、「俺の人生の目的は1年365本の映画を見ること。それを20年続けること」とうそぶく奇妙な中年男ダンさんと出会った。このダンさんの映画狂ぶりはケタはずれ。次から次へと映画の名セリフが飛び出すかと思えば、突如ボギーになってしまう。かと思えば「雨に唄えば」を踊り出してはウットリ。おかしな映画狂同士の珍妙な友情がはじまるのだ。ところがシューマに気になる女の子があらわれた頃から様子が変って来た。シューマはその娘にくびったけ。ミナミという17歳。不良っぽいところがまたたまらない。そんなシューマがダンさんには気が気でない。さてこのおかしな〝三角関係〟はもつれ合い、ほぐれつつ破局へ一直線。そして、あのダンさんとシューマの決定的な一日が訪れるのだ……。

失ったものの重さはいつも後にしか分らない。大人になるってことは、それを拾い集めることなんだ。とシューマはダンさんの笑顔を思い浮かべながらつぶやいてみるのだ。

オールディーズが流れてきたらジャパニーズ・グラフティと呼んでみたくなる！

物語の舞台は1968年秋から69年にかけて。〝3億用事件〟〝東大斗争〟〝川端康成ノーベル賞受賞〟〝謎の連続射殺魔〟……といったニュースが、どこか騒然と街を駈けぬけていた頃。こんな時代背景を効果的にとり入れながら、さらにそれを彩るように流れるのが音楽監督宇崎竜童選曲によるオールディーズ・ソング。「廃墟の鳩」（ザ・タイガース）、「おかあさん」（ザ・テンプターズ）、「愛する君に」（ザ・ゴールデン・カップス）、「ブルーライト・ヨコハマ」（いしだあゆみ）、「恋の季節」（ピンキーとキラーズ）、「グットナイト・ベイビー」（キングトーンズ）、「あの時君は若かった」（ザ・スパイダース）。当時全盛を誇ったグループ・サウンズのヒット曲が、60年代青春の光景を見事に盛りたてている。日本映画にもオールディーズ・ソング映画が登場したことを告げる第一声である。これはやっぱり、〝ジャパニーズ・グラフティ〟と呼んでみたくなる、そんな映画なんだ。

原田真人29歳、川谷拓三37歳、二人の映画狂の出会いからドラマは始まった！

監督の原田真人は長らくアメリカに滞在してハリウッドからユニークな映画情報を送り続けていた根っからの映画狂。敬愛するハワード・ホークス監督が亡くなった翌日から、彼に捧げる映画を、とこの作品のシナリオ執筆を始めた。その時、監督の頭の中にあったのは川谷拓三という俳優のキャラクター。川谷その人を想定しながら、この稀代の映画狂ダンさんという人物を創造したという。原田、川谷というそれこそ映画に惚れぬいた二人が互いの体の中に貯えこんだ映画のエッセンスを出し合いながら、日本映画にはなかったタイプの映画を作りあげてしまったのだ。篇中に散りばめられた名画のエッセンスから、二人のニンマリと笑う顔が見えてこないか。

●5月下旬より特別大ロードショー！（お得な特別鑑賞券1,000円発売中！）

歌舞伎町ミラノ座横	伊勢丹斜め向	渋谷東急文化会館B1	東口 バルコ横	有楽町フードセンター前
新宿東急 (200) 1981	新宿東映パラス (351) 3061	東急レックス (407) 7019	池袋東急 (971) 2727	丸の内東映パラス (535) 4740